

小学校第6学年 造形遊びをする活動と、相互に関連する鑑賞の活動

【学習の方向性】	○材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付き、効果的につくる。 ○活動したことや表現したもののよさや美しさなどを感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を深める。 【A表現（1）ア（2）ア】【B鑑賞（1）ア】〔共通事項〕
----------	--

【題材名】	<b>思い出の場所で</b> ～紙バンドと色短冊を組み合わせて、思い出の場所をアートの空間にしてみよう～
-------	---

【題材目標】	○自分の感覚や材料を組み合わせる活動を通して、形や色、動きやバランスなどの造形的な特徴を理解し、活動に応じて他の材料を活用するとともに、前学年までの経験や技能を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくるようにする。 ○形や色、動きやバランスなどの造形的な特徴を基に自分のイメージをもちながら、材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付き、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考えるとともに、自分たちのつくりだしたものの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、つくり方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めるようにする。 ○主体的に体育館の空間や材料の特徴を生かして、美しく見せる学習活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うようにする。
--------	---

【題材の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分の感覚や紙バンドと色画用紙の短冊を組み合わせる活動を通して、形や色、動きやバランスなどの造形的な特徴を理解している。 ・活動に応じてクリップなどの材料を活用するとともに、前学年までの経験や技能を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくっている。	・紙バンドと色画用紙の短冊の形や色、動きやバランスなどの造形的な特徴を基に自分のイメージをもちながら、体育館の空間の特徴を基に造形的な活動を思い付き、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考えている。 ・自分たちのつくりだしたものの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、つくり方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。	主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組もうとしている。

本題材における〔共通事項〕の捉え

ア自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解している。 イ形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。
--

自分の感覚や紙バンドと色画用紙の短冊を組み合わせる行為を通して、動きやバランスなどの造形的な特徴を理解し、形や色を基に、自分のイメージをもつ。

	活動	具体化した評価の例【評価方法】	知・技	思・判・表	主体的
1	○材との出会い (○学校の中や外で、思い出の場所、空間を探す)	<b>知・技</b> ・自分の感覚や紙バンドと色画用紙の短冊を組み合わせる活動を通して、形や色、動きやバランスなどの造形的な特徴を理解している。 【観察・写真記録】 ・活動に応じてクリップなどの材料を活用するとともに、前学年までの経験や技能を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくっている。 【観察・写真記録】	●	●	●
2	○個人や、グループで相談しながら、材料の特徴を生かしてすてきな空間につくりかえる。 ○互いの活動を見合い、場所の変化や発想の工夫のよさを味わう。	<b>思・判・表</b> ・紙バンドと色画用紙の短冊の形や色、動きやバランスなどの造形的な特徴を基に自分のイメージをもちながら、体育館の空間の特徴を基に造形的な活動を思い付き、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考えている。 【観察・写真記録】 <b>思・判・表</b> ・自分たちのつくりだしたものの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、つくり方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。 【観察・写真記録】 <b>主</b> ・主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組もうとしている。 【観察・写真記録】	●	●	●

## 1. 「学習の方向性」を基に育成を目指す資質・能力を明確にしたカリキュラム・マネジメント

①どの資質・能力を、どの場面で評価する？ 評価規準を具体的にすると？ そのための声かけは？

※造形遊びは、活動が次々と展開していくため、写真や映像の記録が有効。

②共通事項の捉え

知識（高学年）

自分の感覚や紙バンドと色画用紙の短冊を組み合わせる活動を通して、**形や色、動きやバランスなどの造形的な特徴**を理解している。

低学年・・・いろいろな形や色、触った感じ（形状や大きさ、長さ、色の種類、材料による触感の違い）

中学年・・・形の感じ、色の感じ、色の明るさ、材料の組み合わせた感じ（形の柔らかさ、色の冷たさ、色の組み合わせによる感じ方、面と面が重なることでの前後の感じ など）

高学年・・・動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさ（形そのものがもつ方向感、表面の材質感の違い、色の鮮やかさ、時間的な変化の動き、量感や奥行きの感じ、ものの動きやバランスなど）

⇒これらを子どもが理解できるようにするには・・・

③3つの工夫と1つの視点

→出あいの工夫・・・十分な量の紙バンドと色画用紙の短冊+思い出の場所（今回は体育館で）

→場の設定の工夫・・・高学年：「場所や空間の特徴を生かす」ために、仕掛けが必要

→共感的支援の工夫・・・子どもの気づきを教師が具体的に言語化・思いを引き出すなど

→小中一貫の視点・・・長谷川先生の研修会→様々な造形的な経験→6年生での学び→中学へ

④カリキュラム・マネジメント

教科横断的な視点や地域との連携などの振り返り

## 2. 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善における子どもの変容

①造形的な見方・考え方を働かせるには・・・

「感性や想像力を働かせ、造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだす」

②「主体的な学び」のための授業改善の視点

⇒自分の変容を実感できる主体的な学びにするためには・・・

③「対話的な学び」のための授業改善の視点

⇒材料との対話・自分との対話・友人との対話のなかで、見方や感じ方を広げたり深めたりするには・・・

④「深い学び」のための授業改善の視点

⇒「造形的な見方・考え方」を働かせ、表現や鑑賞を相互に関連させて発揮させるには・・・

4月の講演会の内容（「自分からやってみるといいな」「友だちと話すと新しい考えが生まれる」など）  
指導者が意識しておくこと+3つの工夫などの環境づくり+α